6月3日の礼拝メモ

『古傷が痛む時』

ルカの福音書 22:31～34

だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。

序〕

罪は赦されても、私たちが負った傷、受けた痛みは残ってしまう。そして何かの拍子にそれが思い出され苦しむ経験をする時がある。主の弟子だったペテロを通して、彼の負った傷、癒されていった過程を見ながら、私たちのクリスチャンとしての歩みを学んでいきたい。

本〕

Ⅰ信仰はなくなる可能性がある。

ふるいにかけられるとは、試練にあうことを意味する。サタンにとっては、私たちを神様から、あるいは、信仰から引き離そうとするものであるが、主にとっては、私たちがより深く、より高く、純化された信仰成長を遂げるチャンスである。ペテロは無残にも「主を否定する・裏切る」行為をし、そしてクリスチャンになる前の元の生活に戻ってしまった。

Ⅱ信仰がなくならないように主は祈ってくださっている。

ヨハネ21章全体を使って、ペテロの回復を描いている。主が祈ってくださるということは、非常に具体的である。

A個人的　B待っていて下さる　C責めない　D主のほうから近寄って来てくださる　E実際的（食事や暖を用意　休息）

ペテロは主の実際的な行為を素直に受け取っている。ここに信仰回復の秘訣を見る。

Ⅲ信仰が回復したら使命が与えられる。

私たちは傷痕がなくなることを望む。しかし神はそれを用いて下さる。それが「兄弟（私たちの身近にいる人々）たちを力づけてやりなさい」という使命である。自らが傷ついたからこそ、人の痛みが分る温かい隣人になることが出来るのである。

結〕

私たちは時々“ふるいにかけられる”というような出来事を経験する。それはつらいことで、できれば避けたいことである。でもそこを通って初めて身につく事柄があるのも事実である。古傷が痛むとき、後悔するのではなく、主によって癒されたこと、それによってより深く主の愛を知ったことを思い起こさせて頂こう。